

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

034	島津製作所秦野工場・研究所建設計画	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項	事業予定地を含めた周辺は、埋蔵文化財の包蔵地が多数見られることや水無川の自然、丹沢の山並みを控えていることから、特に文化財及び景観に配慮した施設の配置や緑化等について検討する必要がある。また、研究内容等においては、科学技術の進歩等に適切に対応し、環境問題を発生させないよう配慮する必要がある。	環境保全上の配慮を一層確実なものとするため、土地利用計画を見直し、文化財及び景観に配慮した施設の配置や緑化を検討する。
廃棄物	発生する汚泥の減量化や安定化を検討し、その処理方法を具体的に示すこと。また、排液類の管理については、漏出等による地下水汚染がないよう保管施設の構造や管理方法を検討し、その結果を明らかにすること。	汚泥については、フィルタープレスによって、含水率70%程度に落として専門処理業者に委託し、処分する。また、廃棄物保管庫は、屋外への流出を防ぐため、床はコンクリート防水施工で凹型構造とする。なお、管理については、廃棄物処理責任者を定め、施設の点検並びに管理業務の定期的チェックを行う。
動物・植物・景観	更に、良好な景観や鳥類等の生息環境の創出を図るため、緑地景観に連続性を持たすことや、隣接する古墳公園と融合させながら野鳥等の誘致に配慮するなど、うるおいのある環境づくりのための方策について検討すること。	古墳公園に隣接して設置する駐車場を移転し、外周緑地の幅を拡大するとともに、研究棟の規模を一部縮小し、南側に16m移動させ、更に、厚生棟の規模も一部縮小させた結果、古墳広場の緑地空間が広がり、古墳公園と古墳広場の一体感が強まる。また、緑化も食餌木等を植栽することや、地表には自然石を上手に組み合わせる昆虫等の越冬場となりうる林床下の空間形成を図る。
文化財	33号古墳が古墳公園と一体となった古墳群の一部を形成していることに注目し、その連続性や観察できる管理方法について検討すること。またこの地域は、埋蔵文化財の包蔵地が多く見られるので、工事に当たっては特に慎重に施工すること。	古墳公園と古墳広場が一体感を伴って眺められるように十分配慮し、33号古墳についても見学等に便宜を図る。また、工事施工に当たっては、作業員に対し、包蔵地である旨の周知徹底を図り、管理者を定め、工事中の監視を行い、埋蔵文化財が発見された場合には、現状を改変せず、関係機関に連絡し、必要な指示を仰ぎ、必要な措置を行う。
その他	化学物質の適正管理や排出低減に努めるなど、環境汚染や災害の未然防止を図るため、流出防止設備の設置、有害物質の漏洩を早期に発見するための検知システムの整備及び購入量と回収量との収支管理について検討すること。	万一の不測の事態に備え、取扱い施設の構造は化学物質の種類や性状を考慮した構造とし、また、有害物質漏洩のための対策として自動検知システムと測定分析を併用して行い、社内規定に従った収支管理を行う。加えて、事故の未然防止を図るとともに、防火防災訓練や講習会等による社内教育の徹底や緊急時対応の周知を図る。